

11月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

1 さとうきび

メイチユウ類の防除対策

- a 10月中旬の調査の結果、新植圃場の芯枯れ茎率は0.6%（前年0.5%、平年0.7%）と平年並であった。
- b ふ化した幼虫は、夏植えされた苗の葉裏および葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせる。
- c 夏植えの生育初期の加害による芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤（粒剤）を選定し施用する。

2 マンゴー

栄養生長期～花芽分化期におけるチャノキイロアザミウマの防除対策

- a 10月下旬の調査の結果、一部の施設でチャノキイロアザミウマが多発していた。
- b この時期から発生する新梢は、本種の発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。
- c 発生源となる施設内外の雑草除去に努める。
- d 本種は雨に弱いことから、灌水を兼ねて動噴で洗い流すと密度低減につながる。

3 すいか

定植時におけるミナミキイロアザミウマの防除対策

- a 10月中旬の調査の結果、一部の育苗施設で、本種の発生が確認されており、今後、栽培施設での発生が懸念される。
- b 本種はウイルス病である灰白色斑紋病を媒介する。
- c 定植は施設のビニールや防虫ネットを張ってから行う。また、破損部は修復する。
- d 施設の出入り口にはカーテンを設置し、シルバーマルチや近紫外線除去フィルムを用い、飛来侵入を防ぐ。
- e 不要となった苗や残渣は本種の発生源になるので、ビニール袋に入れるなどして施設外へ持ち出し処分する。
- f 定植時には粒剤を施用する。
- g 平成19年度病害虫発生予報第6号（9月予報）7～8頁参照。

4 トマト

トマト黄化葉巻病の防除対策

- 10月の調査の結果、新たに豊見城市、南風原町、糸満市、宜野湾市、中城村で発生が確認された。
- 発病株の早急な抜き取り密封処分を徹底する。
- 媒介虫のタバココナジラミ(シルバーリーフコナジラミ)の防除を徹底する。
- 平成19年度技術情報第2号(平成19年10月1日付け)および本号裏表紙参照。

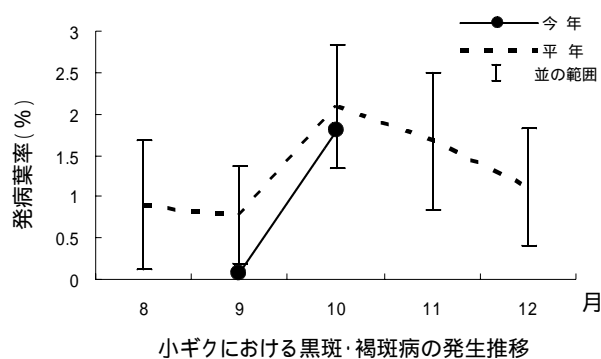
5 小ギク(年末出荷用)

(1)黒斑・褐斑病

発生程度 : 並

予報の根拠

- 10月中旬の調査の結果、発病葉率は1.8%(前年2.4%、平年2.1%)と平年並であった。
- 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並の確率が40%と予想されており、本病の発生は平年並と考えられる。



防除上注意すべき事項

- 圃場は多湿にならないように排水に努める。
- 発病葉と摘葉等による残渣は、圃場の外に持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難となるため、発病初期の薬剤防除を徹底する。